

皆様こんにちは。

未だ終息の兆しが見えないコロナ禍が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか？

総会行事は今年も書面開催になってしまい本当に残念でしたが、同窓会主催の第17回子どものためのコンサートは3年ぶりに開催することが出来て、嬉しく思っております。

さて、私たちが生きている現在は社会が凄いスピードで変化しています。過去の延長線上での発想が役に立たない時代と言えるでしょう。まるで明治維新あるいは戦後の数年間のようなこの時代に対して、どのように対処すべきかを問題意識を持って考えてみる必要があると思っています。コロナ禍で家にいる時間が増えた私は、ほとんど読書と考えることに費やしてきました。ところがしばらくすると自由な発想が湧かず考えに行き詰まりを感じるようになってきたのです。しかしよく考えてみればこれは当たり前のことで、特に時代の転換期においては古い思い込みや固定観念がヘドロのように溜まった頭で何を考えても上手くいくはずがありません。そこで今までの知識をリセットし、考え直し学び直すことが大切ではないかと思いついたのです。

例を挙げてみましょう。マイク・ラザリディスをご存知ですか？かつてアメリカでスマートフォン市場のほぼ半分を占めていた BlackBerry（ワイヤレスの e-mail 受送信のためのデバイス）の開発者です。2009年当時 iPhone の登場で市場が沸いても社員たちから様々な提案があっても聞く耳を持たず、過去に大成功した BlackBerry の機能にこだわり続けました。その結果2014年までにそのマーケットシェアは1%以下に急落してしまっただけです。一方アップルのスティーブ・ジョブズ、彼もラザリディス同様絶対に携帯電話は作らないと断言していました。しかしジョブズは社員の説得に耳を傾け信念を変えたため、アップルの復活伝説が生まれたのです。この例をみても他者の意見に耳を傾け自分の信念を考え直すことは、とても大切だという事が分かります。

しかし本当に立派だったのはジョブズ？それともジョブズを説得した社員？どちらも立派ですが、本当に素晴らしいのはジョブズと社員との関係だと思えます。普段から信頼関係が強くお互いに尊敬を持ち合って、言いたいことが言える関係に私たちは目を向けるべきだと思います。人は人との関係性において成長するものだという事に気付くべきです。例えば小澤征爾、彼が世界的指揮者に成長したのは努力と才能によることはもちろんですが、それ以上に彼と関わった人々との間に素晴らしい関係があったからです。それについて詳しいことは柴田克彦著の「山本直純と小澤征爾」を読んでいただければわかると思います。

私たち日本人は議論が苦手なようです。それを国民性と片付けてしまわないで改善すべきだと思います。議論することによって相手と気まずくなるのを避けたいならば、気まずくなる原因を取り去るべきです。その原因の一つには物事を分けて考える習慣があまりないことだと思います。例えば自分を定義する時に自分の信念や信条に基づいていませんか？ところが信念は永続的ではなく、変わっていくものなのです。自分の信念（考え）と自分の価値観（アイデンティティ）とを混同しがちですが、信念と価値観は違うものなのです。価値観とは「自由で公正でありたい」とか「誠実でありたい」とか、教師であれば「生徒の学びに全力を尽くしたい」とか、その人の人生の中核を成すものでありほぼ永続的で、信念はその人の成長によって進化し変わっていくものなのです。分かりやすくいえば「名古屋から博多へ行く」（目的）のために「新幹線で行くか、飛行機で行くか、フェリーで行くか」（手段）のようなものです。この目的が価値観であり、手段が信念なのです。このように個人の意見や考えを個人のアイデンティティと分けて考えれば、相手が自分と違った意見を言っても素直に聞けるのではないのでしょうか？

この変化の激しい現代において今までの常識が通用しなくなれば、だれも考えつかないような新しい着想が必要になってきます。そのためにはなるべく様々な考えを持つ多くの人と一緒に考えてみるべきです。音楽科同窓会では来年は第7回卒業生によるコンサートを予定しています。また80周年行事も準備中です。その開催のしかた、宣伝方法などを全員で考えてみませんか？素晴らしい案ができることを期待しています。同窓会のホームページに是非ご意見をお寄せ下さい。

「考え直し」については、アダム・グラント著「THINK AGAIN」が参考になります。沢山のデータと分かりやすい説明でお薦めです。また考え直し方法ですが、これは実践が難しい。頭で理解できても心と体が納得しなければ、考え直しは無理なようです。幸いなことにカルロ・ロヴェッリ著「時間は存在しない」という本に出会い、私にとっての考え直しのためのインスピレーションを得ることができました。皆様も色々な本にあたったり、他人の意見を聞いたりして、自分なりの考え直しの方法を見つけてみてはいかがでしょうか？

来年こそは総会、卒業生によるコンサートなどで、皆様にお会いできることを願っています。

今後も同窓会の活動にご協力くださいますよう、よろしく願いいたします。